



生ごみ乾燥処理機の前で



東京都小金井市
夏休み・土曜生ごみ投入事業ボランティア

杉本 久也 さん



Q 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

A 82歳。両親は石川県出身。東京都大森文化村で新婚生活を始めたようです。私はそこで生まれました。戦後移り住んだ福岡県戸畑市で小・中学校時代を、小倉市で高校1年の1学期を過ごし、秋から再び東京へ舞い戻りました。田無市で就職。最後はつくば市で定年退職し、2005年に小金井市に移住してきました。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

A 転入した当時、小金井市ではごみ焼却場の建て替えが問題になっていました。少しでも燃やすごみを減らそうと、市の「ごみゼロ化推進会議」が旧組織から新しく衣替えして発足したところでもありました。町内会から2人の部会員をごみゼロ化推進会議に出す決まりになり、新人の私が選出される羽目になったというわけです。これがごみ問題に関わるようになったいきさつです。

その後、小金井市はごみの焼却を他市にお願いすることになり「ごみ非常事態宣言」まで出される事態になりました。そんな中、市は小中学校の給食残さを堆肥化するため、各学校に生ごみ乾燥処理機を設置。さらに給食のない夏休みに、地域の生ごみをこの生ごみ乾燥処理機で受け入れる「夏休み生ごみ回収事業」を始めました。

ごみ非常事態宣言を受け、自分のできるごみ減量は何かと考えていた市民はこれに応え、進んで参加していききました。私もさっそくボランティアとして回収の現場に立ちました。

その後、市民からの「学校給食のな

い夏休み以外の土曜日にも生ごみを回収してほしい」との要求を受けて「土曜生ごみ回収」が始まりました。

しかし市は夏休み生ごみ回収のように事業化することはせず、援助はするが市民のボランティアで行って欲しい、という姿勢。私も他校のボランティアも再三事業化を求めてきましたが、進展することなく、現在でもボランティア頼みの不合理な状態は続いています。

2020年に、ようやく日野市・国分寺市・小金井市の三市による共同のごみ焼却処理施設（浅川清流環境組合/日野市）が稼働開始しました。可燃ごみがそちらに持ち込まれるようになり、市民のごみ減量への関心も薄れてきているのに加えて、ボランティアグループの高齢化も進んでいます。学校によっては、ボランティア不足で土曜生ごみ回収の存続が危ぶまれています。

幸い、私が関わっている前原小学校では、ごみ・環境ビジョン21の井上さんがこの活動に参加してくれ、ボランティア呼びかけのチラシを作ったところ、何人かの若い方々がボランティアに参加してくれました。

Q ごみかんに入会して下さったきっかけは？

A 夏休み・土曜生ごみに井上さんが参加されて、井戸端会議のようにごみかんのお話を伺ったのがきっかけです。ごみ大学セミナーが大変勉強になって魅力です。「ごみっと・SUN」も毎月面白く読んでいます。

Q ごみ問題に関わることで以外で趣味や生きがいは？

A 小金井市に移って約20年。我が家は塀がないため（写真）

狭いとはいえ、家の周りに土がありません。生ごみは北側に穴を掘って堆肥化。さらにその堆肥を使って南側と西側にきゅうり、ゴーヤなどの栽培を試みたところうまくいって、西側は日よけのため2階まで伸ばして、実もたくさんついて楽しめました。

最近、連作障害のため実の個数は減りましたが満足しています。最近では品種も増えてトマト、ナス、オクラ、枝豆、ピーマン、甘長唐辛子、モロヘイヤ等育てて楽しんでいます。

私たち夫婦は定年退職後、木の家に住みたいと望んでいました。偶然見かけた古民家再生協会に入会し、見学、勉強しながら見つけのが松戸市にあった築約90年の米蔵でした。太い梁が魅力で決断して移築再生をお願いしたのが写真の家です。内装の壁などは二人でDIYをしました。不便なところもありますが、1階から吹き抜を通して2階の梁を楽しめます。

Q ごみかんに期待することや提案したいことを教えてください。

A ごみ処理やごみ減量、リサイクルに関して新しい技術、新しい取り組みがあればどしどし知らせてほしいです。